

現役合格への 軌跡

2026 年度 大阪大学文学部 日本史 第4問 〔問題編〕

今回は 2026 年度の大阪大学文学部の第4問「不平等条約と条約改正」を解説します。不平等条約改正の過程を述べる問題ですが、200 字程度の字数なので、条約改正交渉の内容をただ羅列するのではなく、書く内容を絞り込んで解答しなければなりません。ぜひチャレンジしてください。

(IV) 日本史 問題（出題範囲は歴史総合，日本史探究）

オスマン帝国はヨーロッパ諸国に対してカピチュレーションと呼ばれる恩恵的特権を与えて貿易を行った。しかし、18 世紀以降、ヨーロッパとの貿易関係が逆転し、カピチュレーションはヨーロッパ諸国による中東侵略の有効な手段に変わった。類似の関係が、江戸幕府と欧米諸国との間においてどのように現れ、またその後撤廃に至ったのか、具体的に述べなさい（200 字程度）。

日本史選択者で歴史総合の学習を疎かにしている生徒は「カピチュレーション？何それ？」と思ったかもしれません。ですが、「はい、積んだ」とすぐに諦めて捨て問にしてしまうのではなく、問題文をもう一度読んでみてください。カピチュレーションの意味を知らなくても、江戸幕府と欧米諸国の関係に関する問題で、それがその後どのようにして撤廃に至ったのかを述べるとあるので、不平等条約の内容と条約改正がどのようにして達成されたかを書けば良いということが判断できます。ちなみにカピチュレーションとは、オスマン帝国が欧米諸国に与えた通商上の特権で、領事裁判権などを付与するものです。

この問題の答案を作成するためには、

- ①江戸幕府がどのようにして不平等条約を締結するに至ったか。
- ②明治時代の条約改正交渉の進展。
- ③領事裁判権の撤廃。
- ④関税自主権の完全回復。

といった順番で論述するのが良いでしょう。

- ①まずは、どのようにして幕府が不平等条約を締結するに至ったかです。

1858 年、江戸幕府はハリスとの交渉を経て日米修好通商条約を締結し、ついで、オランダ・イギリス・フランス・ロシアとも同様の条約を締結した。これを安政の五カ国条約といい、領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約であった。

②次に、条約改正交渉の進展ですが、ただ岩倉具視から小村寿太郎までの改正交渉を羅列するのではなく、条約改正交渉にあたった外務卿や外務大臣がどのようにして不平等を解消しようとしたかを述べてみましょう。

井上馨外相・大隈重信外相らは鹿鳴館外交などの欧化政策や外国人判事の任用を条件に領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発を受けて挫折した。

③次は、いつ、領事裁判権の撤廃に成功したかです。

清国に多大な利権を要するイギリスはロシアの南下政策が清に及ぶことを警戒し、陸奥宗光外相が日清戦争直前に日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。

④最後に、いつ、関税自主権の回復に成功したかです。

日露戦争後には小村寿太郎外相のもとでアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。

つなげてみましょう。

1858年、江戸幕府はハリスとの交渉を経て日米修好通商条約を締結し、ついで、オランダ・イギリス・フランス・ロシアとも同様の条約を締結した。これを安政の五カ国条約といい、領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約であった。明治政府はこの状況を打開するために、井上馨外相・大隈重信外相らが鹿鳴館外交などの欧化政策や外国人判事の任用を条件に領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発を受けて挫折した。清国に多大な利権を要するイギリスはロシアの南下政策が清に及ぶことを警戒し、陸奥宗光外相が日清戦争直前に日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。日露戦争後には小村寿太郎外相のもとでアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。

(359字 ※注：半角数字は2文字で1字とカウントします。1858は2文字。)

他の大学の字数制限が〇〇字以内であるのに対し、大阪大学文学部の字数制限は200字程度ですので、200字をこえても良いのですが、ちょっとこれは多すぎます。削っていきましょう。

現役合格への 軌跡

1858年、江戸幕府はハリスとの交渉を経て日米修好通商条約を締結し、ついで、オランダ・イギリス・フランス・ロシアとも同様の条約を締結した。これを安政の五カ国条約といい、で領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約であつを締結した。明治政府はこの状況を打開するために、井上馨外相・大隈重信外相らが鹿鳴館外交などの欧化政策や外国人判事の任用を条件に領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発を受けてで挫折した。清国に多大な利権を要するイギリスはロシアの南下政策が清に及ぶことを警戒し、陸奥宗光外相が日清戦争直前に日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。また、日露戦争後には小村寿太郎外相のもとでアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。

まず、安政の五カ国条約で不平等な内容の条約を結んだことを簡潔に伝えるために、ピンクの部分の部分を削りました（太字は足した部分です）。

江戸幕府は安政の五カ国条約で領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約を締結した。明治政府はこの状況を打開するために、井上馨外相・大隈重信外相らが外国人判事の任用を条件に領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発で挫折した。清国に多大な利権を要するイギリスはロシアの南下政策が清に及ぶことを警戒し、陸奥宗光外相が日清戦争直前に日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。また、日露戦争後には小村寿太郎外相のもとでアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。

(279字)

まだ多いか。後半部分の日清戦争直前に治外法権を撤廃したことと、日露戦争後に関税自主権を回復したことが一番述べたいところですので、それ以外の部分をスリムにしていきたいと思います。

江戸幕府は安政の五カ国条約で領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約を締結した。明治政府はこの状況を打開するために、井上馨外相・大隈重信外相らが外国人判事の任用を条件に領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発で挫折した。清国に多大な利権を要するイギリスはロシアの南下政策が清に及ぶことを警戒し、ロシアの南下政策を警戒するイギリスとの間で陸奥宗光外相が日清戦争直前に（水色の部分を文の頭に持っていきます。）日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。また、日露戦争後には小村寿太郎外相のもとでアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。

江戸幕府は安政の五カ国条約で領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約を締結した。明治政府は領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発で挫折した。日清戦争直前に、ロシアの南下政策を警戒するイギリスとの間で日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。また、日露戦争後にはアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。(207 字)

いかがでしょう？

2026 年度 大阪大学文学部日本史 第 4 問〔解答例〕

江戸幕府は安政の五カ国条約で領事裁判権の承認や協定関税制の採用など、日本にとって不平等な内容の条約を締結した。明治政府は領事裁判権の撤廃の交渉を行ったが、政府内や国民の反発で挫折した。日清戦争直前に、ロシアの南下政策を警戒するイギリスとの間で日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を実現した。また、日露戦争後にはアメリカを皮切りとして条約が改正され、関税自主権の完全回復に成功した。(207 字)

二次試験だけでなく、共通テストのこともありますので、歴史総合の学習も疎かにしないようにしましょう^^